茨木市立　太田中学校　学力・体力向上ジャンプアップ計画

平成２８年１０月作成

1 今年度の結果と取り組みについて

（1）全国学力・学習状況調査

○●国語●○

国語A

⑴領域ごと⑵

①話すこと･聞くこと
概ね良好な結果であった

②書くこと
概ね良好な結果であった

③読むこと
概ね良好な結果であった

④言語事項
概ね良好な結果であった

⑴問題形式⑵

①選択式
概ね良好な結果であった

②短答式
概ね良好な結果であった

③記述式
該当する問題なし

⑴無解答率⑵
概ね良好な結果であった

⑴その他⑵

･もっとも正答率の高かった設問
「適切な語句を選択する」
･もっとも正答率の低かった設問
「漢字を書く」
･もっとも無解答率の高かった設問
「質問に対する答えが明確になるように適切な言葉を書く」
･もっとも無解答率の低かった設問
適切なものを選択する問題

国語B

⑴領域ごと⑵

①話すこと･聞くこと
該当する問題なし

②書くこと
概ね良好な結果であった

③読むこと
概ね良好な結果であった

④言語事項
該当する問題なし

⑴問題形式⑵

①選択式
概ね良好な結果であった

②短答式
概ね良好な結果であった

③記述式
概ね良好な結果であった

⑴無解答率⑵
概ね良好な結果であった

⑴その他⑵

･もっとも正答率の高かった設問
「目的に応じて必要な情報を読み取る」
･もっとも正答率の低かった設問
「本や文章などから必要な情報を読み取り，根拠を明確にして自分の考えを書く」
･もっとも無解答率の高かった設問
「本や文章などから必要な情報を読み取り，根拠を明確にして自分の考えを書く」
･もっとも無解答率の低かった設問
適切なものを選択する問題

分析

A 問題と B 問題の両分野において、全国平均の正答率を上回った。前年度と同様に、文章を読み、その内容を理解して整理する力が身についていると考えられる。そのため、選択肢を示されれば自身の考えに基づいて正しいものを選ぶことができる。また、短答式の問題においても、積極的に解答しようとする傾向がある。こういったことから、自分で考え、表現しようという姿勢が見られる。

一方で、相対的に書く力に課題があり、記述式の問題の無解答率も高くなっている。自分の中に考えがあっても、文章として論理的に組み立てる力が不足していると考えられる。熟語を、その構成を理解しないままに覚えていることも、原因の一つと思われる。文章を書くうえでの知識が、まだしっかりと備わっていないと考えられる。

今後は、引き続き基礎を大切にした国語力を養いつつ、多様な取り組みによって応用力も身につけていく必要がある。国語の授業を中心とした日常の中の書く機会を活用し、生徒自身が自分の文章を吟味する習慣を定着させていきたい。

○●算数・数学●○

算数･数学A

⑴領域ごと⑵

①数と計算
良好な結果であった

②図形
概ね良好な結果であった

③関数
概ね良好な結果であった

④資料の活用
良好な結果であった

⑴問題形式⑵

①選択式
良好な結果であった

②短答式
概ね良好な結果であった

③記述式
該当する問題なし

⑴無解答率⑵
概ね良好な結果であった

⑴その他⑵

○もっとも正答率の高い設問
「正負の数の加法の計算」

○もっとも正答率の低い設問
「垂線の作図方法を答える」

○もっとも無解答率の高い設問
「一次関数の変化の割合」「一次関数の変域」
「最頻値を読みとる」

○もっとも無解答率の低い設問
「自然数の意味」「正負の数の加法の計算」
「不等式の意味」など

算数･数学B

⑴領域ごと⑵

①数と計算
良好な結果であった

②図形
概ね良好な結果であった

③関数
良好な結果であった

④資料の活用
概ね良好な結果であった

⑴問題形式⑵

①選択式
概ね良好な結果であった

②短答式
良好な結果であった

③記述式
良好な結果であった

⑴無解答率⑵
概ね良好な結果であった

⑴その他⑵

○もっとも正答率の高い設問
「必要な情報を適切に選択し，処理する」

○もっとも正答率の低い設問
「適している理由を説明することができる」
「問題を解決する方法を数学的に説明することができる」

○もっとも無解答率の高い設問
「付加された条件の下で，新たな事柄を見いだし，説明することができる」

○もっとも無解答率の低い設問
「与えられた情報から必要な情報を適切に選択し，処理することができる」

分析

数学Aと Bを通して、すべての領域において全国平均の正答率を上回った。特に数学Aの「数と式」「資料の活用」、数学Bの「数と式」「関数」では良好な結果であった。この結果から自校の生徒は、計算問題や、数や数式を扱う問題を解くことができる力に優れていると考えられる。また、表から読み取って答える問題や確率に関する問題についても良好な結果だったことからも、この領域においては解く力がついていると考えられる。設問別にみても、数学Aと Bのすべての問題において全国平均の正答率と同等かそれ以上の結果となっていることから、バランス良く力をつけていると考えられる。無解答率については、数学A、Bともに全国と比べて下回る結果となった。しかし、問題の「円錐の体積は，それと底面が合同で高さが等しい円柱の体積の1/3であることを理解している」や「資料を整理した表から最頻値を読み取ることができる」において無解答率が高かった。体積の公式の1/3の意味を理解しきれていない生徒や、最頻値という言葉を理解していない生徒がいたことが要因として考えられるため、言葉や公式の意味を理解できるような工夫が必要である。

昨年度から、日常的な事象を数学的に捉え、考察して数学的に説明することに対しての苦手さがあった。しかし、今年度は日常生活の事象を数学的な表現を用いて説明する記述式の問題での正答率が全国平均を上回る結果となった。数学的な表現を用いて日常的な事象を説明する機会を重点的に授業に取り入れてきた成果が一定認められる結果になったと考えられる。今後も、説明する機会を授業で取り入れ、数学的な表現をより豊かに自分の言葉として説明に用いることができる力を育みたい。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

正答率は国語・数学ともに全国平均を上回る結果となった。数学 B の正答率は過去最高の値となり、国語 B の正答率も昨年度には及ばなかったものの、高い値となった。中学校正答率においては、過去最高の値となった。

一方無解答率は昨年度より高く、解答することに対して消極的な姿勢がうかがえる。日々の学習から定期テストや実力テストにおいて、解答することに対して積極的な姿勢を育むことが必要と考える。

学力高位層と学力低位層についての分析

高位層の割合を表すグラフは上下を繰り返す形となっている。低位層はほぼ高位層と反比例する形をとっている。

今年度は昨年度と同様、高位層が高く、低位層が低い値となった。また、高位層はさらに増え、低位層は減る値となった。全体的に中間層と高位層が多く、低位層が少ないため、高位層と低位層の差はさほど激しくないことが分かる。

○●取り組み●○

学力向上に関する取り組み

・中学校ブロックで連携し、小中合同授業研や公開授業を行う。小中連携により９年間を見据えた授業作りを目指す。
・「好き」「書く」をテーマにした校内研究授業を行う。
・「好き」といえる生徒の姿の研究や授業指標づくりと検証を進める。
・各教科において「書く機会」を設け、苦手意識の克服を目指す。
・基礎学力の定着を目指して「鉄人テスト」を行う。
→基礎内容の復習を定期考査２週間前から取り組み、定期考査に向けた学習をスムーズにスタートすることを目指す。「できた」を実感し、前向きに取り組む姿勢を育む。
・既習事項の確実な定着を目指した定期考査前の補充として「テススタ」を実施する。
・活字に親しむ機会を増やすとともに、１日の生活をスムーズにスタートさせるため朝の読書を行う。
・宿題の提出を徹底するために、未提出者への声かけや放課後の学習指導を行う。
・学校と家庭で連携し、家庭学習の定着を目指す。そのために「１週間の提出物」を習慣化させる。
・長期休暇を利用した、学習指導を行う。
・連絡帳を活用し、するべきことの確認をさせて先の見通しを持たせ、自己管理能力を身につけさせる。

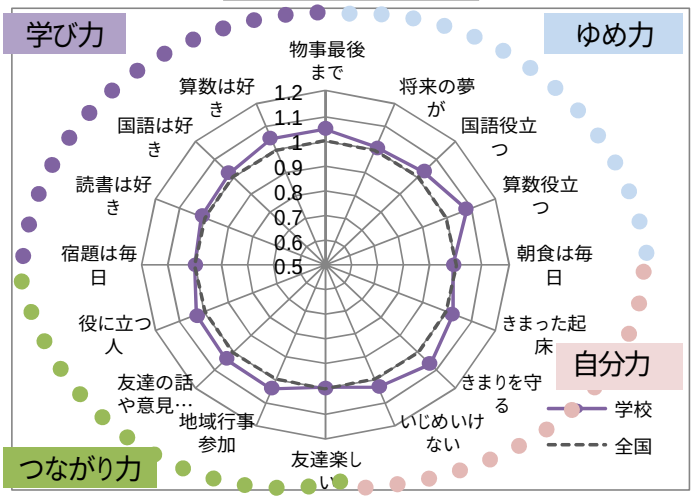
【国語】
・古文に慣れ親しむため、暗唱して声に出すことに慣れさせる。（百人一首も活用）
・文章を書くことへの苦手意識をなくすために、様々な場面で書くことを実践していく。
・語彙力を増やすため、読書活動を生徒に勧めていく。
・漢字の確認テストを定期的に行い、漢字の読む・書く力をつける。
・各単元ごとに、内容の確認と応用力の育成のために課題を設ける。

【数学】
・基本的な計算力をつける取り組みを引き続き行う。例えば、百ます計算、計算演習の授業、放課後の勉強会を定期的に実施する。
・身の回りの事象を取り上げ、数学的な方法を用いて解決するような問題解決型学習を多く設定する。
・計算だけではなく、記述式問題や自分の考えや解き方を説明し記述する問題を増やし発表練習を増やす。

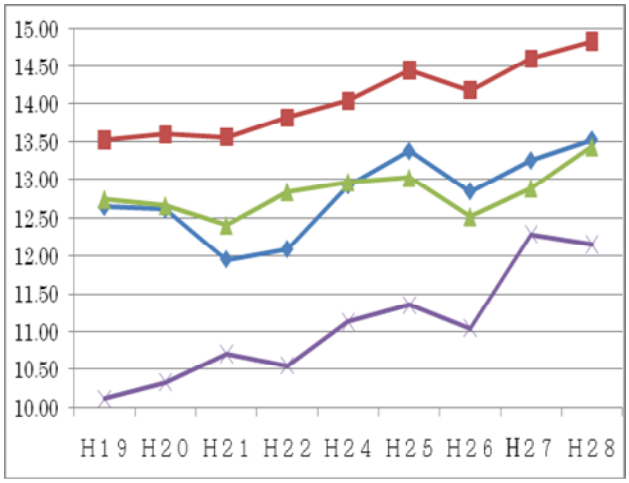
【理科】
・問題演習の時間を取りながら、基礎知識を定着させていく。
・継続的に実験・観察を行い、実験結果から考察する力を伸ばしていく。

○●子どもたちに育みたい力●○

今年度の結果



これまでの推移



【分析】

以下に示す４つの力全てにおいて、全体的には上昇傾向にある。しかし、今年度は「学び力」おいて下降が見られた。各設問において、全国平均と比較すると、「朝食は毎日食べる」の項目を除くすべての設問で上回る結果となった。

ゆめ力…「国語や数学が将来役立つ」という質問は良好な結果であった。特に、「国語は将来役に立つ」は 87.3%,「数学は将来役に立つ」は 81.2%と多くの生徒が将来役立つと答えている。その他の質問も、おおむね良好な結果となった。

自分力…どの質問にも 90%前後の生徒が当てはまると答え、基本的な生活習慣が身にいていると考えられる。また、「いじめはいけない」と答えた生徒は 95.4%、「きまりを守る」と答えた生徒は 97.7%で規範意識の高い生徒が多い結果となった。

つながり力…「友達に会うのは楽しい」と答えた生徒は 93.1%で良好な結果となった。学校やクラスを楽しいと思えるような集団作りがなされている結果だと考えられる。

学び力…全体としては昨年度より下回る結果となった。「宿題は毎日している」と回答した生徒は 94.0%で、多くの生徒が家庭学習の習慣が身についていると考えられる。一方で、１日当たり、テレビやゲームを行う時間、携帯、スマートフォンを利用する時間の多い生徒が昨年度より上回る結果となり、携帯電話やスマートフォンの所持率も上昇していることがわかる。また、「平日の学習時間が１時間より少ない」や「土日の学習時間が１時間より少ない」と答えた生徒も割合いるため、家庭学習が定着していない生徒もいると考えられる。

「４００字詰め原稿用紙２～３枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか」や「学校の授業などで,自分の考えを他の人に説明したり，文章に書いたりすることは難しいと思いますか」に 60%前後の生徒が難しいと回答していることから、昨年度から引き続き「書く」ことへの取り組みが必要と考えられる。

取り組み

①人権教育の充実と深化

・教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間等、全教育活動の中で、人としての生き方を考える。

・自分も仲間も大切にし、互いに支え合い励ましあい高めあう生徒集団の育成を目指す。

②学び力の向上

・学力向上の内容に沿って取り組む。

・宿題の提出を徹底するために、未提出者への声かけや放課後の学習指導を行う。

・学校と家庭で分析結果を共有し、「家庭学習」の定着を目指す。

・朝読の継続と、読書活動をより推進し読書に親しみを持つ機会を増やす。

・書く活動への取り組みを行う。

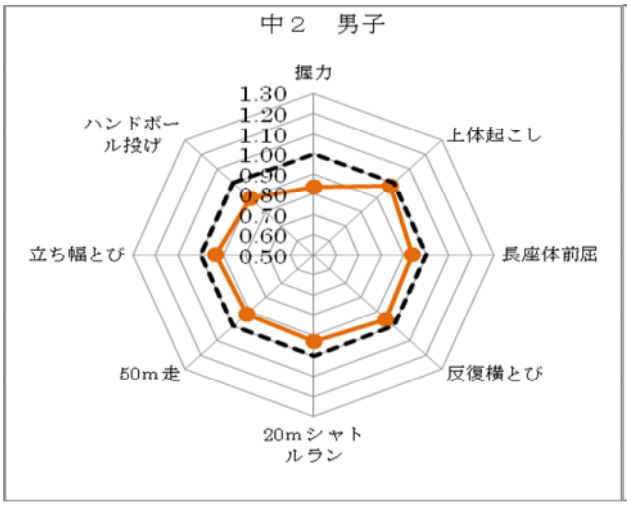
③生活指導の充実

・保護者や地域との連携を深めるとともに、生徒が安心して過ごせる学校作りを目指す。

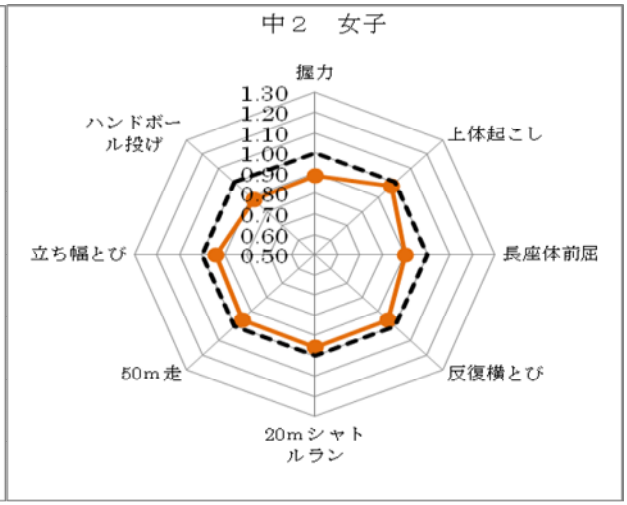
（2）全国体力・運動能力、生活習慣調査

○●体力●○

男子（中2）



女子（中2）



分析

本年度の２年生男子は、身長・体重ともに全国平均・府の平均・市の平均と全てにおいて下回っており、運動能力においても下回っている。成長過程の遅れが運動能力の低下にも反映されていると思われる。

一方、２年生女子は、身長・体重ともに全国平均・府の平均・市の平均と大差なく、運動能力においても、少し下回ってはいるが大差ないことがわかる。

また、男女ともに『握力』と『ハンドボール投げ』の数値が他に比べて下回っていることがわかるので、今後、どのようにしてこれらの力を身につけていくかが課題である。

しかし、１年生時に測定した記録と比べてみると、種目ごとに伸びの差はあるが、全ての種目において記録が伸びていることから、体育の授業やクラブ活動・さまざまな行事などで体を動かしている成果が出ていると考えられる。

ボール遊びや体を動かしての遊ぶ場所が減ってきている状況の中で、学校体育の中で多くの領域の運動を実践し、生涯にわたって続けられる運動を見つけ実践していくことが大きな課題といえる。

取り組み

・新体力テストを継続して実施し、個々の体力を分析・検証する。また、小学校からのデータを引き継ぎ分析・検証する。
・毎時間の体育授業時に実施している『補強運動(ランニング・腕立て・腹筋・背筋・馬跳び)』の充実を図る。
・授業時の球技のときに『投げる』動作の練習を積極的に取り入れるようにする。
・駅伝・マラソン大会を継続して実施する。
・年間授業計画に、球技種目を積極的に取り入れるようにする。
・クラスマッチの種目に積極的に球技を取り入れるようにする。
・授業で長距離走を実施し、タイムトライアルも積極的に取り入れるようにする。
・さまざまな領域の運動を実施し、生涯にわたって運動を続けられるよう手助けする。
・小学生へのクラブ体験を実施する。
・小学校の連合運動会の練習のため、陸上部の出前指導を実施する。

2 ３年間の計画

	学力向上	体力向上	中学校ブロック連携
	⑴各校		⑵ブロック共通
目標	豊かな表現力を身につける	基礎体力の向上を実現	「好き・書く・体力」の ジャンプアップ実現する
平成26年度	・小中合同授業研や公開授業 ・校内研究授業 ・「好き」といえる生徒の姿の研究，授業指標づくりと検証 ・各教科における「書く機会」の設定 ・鉄人テスト，テススタ ・朝の読書 ・宿題提出の徹底 ・さらなる「家庭学習」の定着 ・長期休暇を利用した、学習指導	・体力テストの実施と分析 ・補強運動の充実。 ・柔軟運動を補強運動に積極的に取り入れる。 ・『投げる』運動を積極的に取り入れる。 ・駅伝・マラソン大会の実施。 ・クラスマッチでの球技大会の実施。 ・小中連携としての地球一周マラソンの実施。 ・小学生へのクラブ体験と出前指導の実施。 ・体力向上プロジェクト 西河原小学校公開授業研	○「好き」になる授業作り 算・数で共同研究 ・太田小公開授業 ・太田中数学担当が小学校へ出前授業 ○「書く」活動を全教科で ・苦手意識克服の取り組み ・指導法共同研究 ○「体力」づくり ・体育授業の改善 ・中学校区全体でマラソン「みんなで走って地球一周」の取り組み ・西河原小　体力向上プロジェクト授業の参観 ○事務の共同実施
平成27年度	・小中合同授業研や公開授業 ・校内研究授業と研究討議の充実 ・「好き」といえる生徒の姿の研究，授業指標の実施と検証 ・各教科における「書く機会」の設定 ・鉄人テスト，テススタ ・朝の読書 ・宿題提出の徹底 ・さらなる「家庭学習」の定着 ・長期休暇を利用した、学習指導	・体力テストの実施と分析 ・マラソン大会の実施 ・体力向上のための遠泳 ・小学生へのクラブ体験と出前指導の実施 ・小学生のクラブ体験実施 ・クラスマッチでの球技大会の実施 ・補強運動の充実 ・体力向上プロジェクト 茨木小学校公開授業研	○「好き」になる授業作り 算・数で共同研究 ・太田小公開授業 ・太田中数学担当が小学校へ出前授業 ○「書く」活動を全教科で ・書くことが楽しくなる取り組み ・指導法共同研究 ・西河原小授業研(国) ○問題解決学習の充実 ○「体力」づくり ・体育授業の改善 ・体育公開授業（太田小、西河原小） ・中学校区全体でマラソン「走って走って日本縦断」 ○上記の項目の子どもの実態を調べるため、意識アンケートの実施と考察（年２回） ○事務の共同実施
平成28年度	●ジャンプアップ３カ年計画の総括・検証 ・小中合同授業研や公開授業 ・校内研究授業と研究討議の充実 ・「好き」といえる生徒の姿の研究，授業指標の実施と検証 ・各教科における「書く機会」の設定 ・鉄人テスト，テススタ ・朝の読書 ・宿題提出の徹底 ・さらなる「家庭学習」の定着 ・長期休暇を利用した、学習指導	●3 カ年計画の総括・検証 ・年間授業計画の見直し ・体力テストの実施と分析 ・マラソン大会の実施 ・体力向上のための遠泳 ・小学生へのクラブ体験と出前指導の実施 ・小学生のクラブ体験実施 ・クラスマッチでの球技大会の実施 ・補強運動の充実 ・体力向上プロジェクト 太田中学校公開授業研	●ジャンプアップ３カ年計画の総括・検証 ○小中連携ブロック会議の推進 ・合同授業研修を３校で実施 ６月太田小学校、７月太田中学校、11 月西河原小学校 ○「好き」になる授業作り ・太田中英語担当が小学校へ出前授業 ○ブロック連携通信を発行 ○「書く」活動を全教科で ・めあて、振り返りの実施 ・指導法共同研究 ○問題解決学習の充実 ○「体力」づくり ・体育授業の改善 ・体育公開授業（西河原小、太田中） ・中学校区全体でマラソン「走って走って日本縦断」 ○上記の項目の子どもの実態を調べるため、意識アンケートの実施と考察（年２回） ○事務の共同実施